

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	公立千歳科学技術大学
設置者名	公立大学法人公立千歳科学技術大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
理工学部	応用化学生物学科	夜・通信	29	-	22	51	13	-
	電子光工学科	夜・通信			33	62	13	-
	情報システム工学科	夜・通信			38	67	13	-
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本学ホームページにて公表 URL: https://www.chitose.ac.jp/info/info_index/311 ※「授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること」にて公表
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	公立千歳科学技術大学
設置者名	公立大学法人公立千歳科学技術大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

本学ホームページにて公表
https://www.chitose.ac.jp/info/info_corporative
※役員（名簿）にて公表

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	国立大学教授	2025.4.1～ 2027.3.31	総括
常勤	株式会社役員	2025.4.1～ 2027.3.31	総務、財務、渉外、 地域貢献（SNC構想）
非常勤	私立大学副学長	2025.4.1～ 2027.3.31	計画評価、コンプライアンス、 特命事項
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	公立千歳科学技術大学
設置者名	公立大学法人公立千歳科学技術大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>シラバスは、全学的に統一した様式にて各授業科目担当教員が作成している。シラバスの記入項目は、①科目名、②配当学年、③必修・選択の区分、④CAP 制対象の有無、⑤授業の種類、⑥単位数、⑦授業回数、⑧授業担当者、⑨単位認定責任者、⑩実務経験の有無、⑪実務経験のある教員名および授業の関連内容、⑫授業科目の概要、⑬授業科目の到達目標、⑭学修成果評価項目および評価方法、⑮授業の展開、⑯授業外学修について、⑰教科書、⑱参考文献、⑲試験等の実施及び成績評価の割合、⑳成績評価の基準、㉑試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項の 2 1 項目からなり、その授業科目によって「何ができるようになるか」、「どのように成績評価を行うのか」、「授業外学修をどのように行ったらよいか」等について、明確に示している。</p> <p>シラバスは、2月に各授業科目担当教員が作成し、3月上旬から中旬にかけて確認作業を行った後、3月下旬頃に公表している。公表方法については、在学生は学内の web 履修登録システムからシラバスを確認することができ、また、本学ホームページにも PDF 化したシラバスを公開しており学内関係者のみならず、一般にもシラバスを公開している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>本学ホームページにて公表</p> <p>URL : https://www.chitose.ac.jp/info/info_index/311</p> <p>※PDF 化したシラバスにて公表</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>各授業科目の成績評価及び単位認定については、本学学則及び公立千歳科学技術大学履修規程に規定しており、それらの規程に基づき各授業科目の担当教員が予めシラバスにて示した成績評価の方法・基準(試験実施の有無や試験結果の評価への反映の割合等)により厳格かつ適正に行っている。</p> <p>【成績評価の基準】※全学共通 秀 (100～90 点)、優 (89～80 点)、良 (79～70 点)、可 (69～60 点)、不可 (59～0 点)</p>	

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本学は、成績評価について GPA 制度による客観的な指標を設定しており、算出方法は公立千歳科学技術大学履修規程及び履修登録単位数の上限並びに GPA に関する取扱要綱に規定している。

本学における GPA の算出方法は、学期 GPA と通算 GPA に分けて行っており、下記の算出式により行っている。また、これらについては、「履修ガイド」にて学生に示しているほか、本学ホームページでも公表している。

【GPA 算出式】

区分	GPA算出式
学期G P A	$\frac{(\text{その学期に評価を受けた科目で得たG P}) \times (\text{その科目の単位数の合計})}{\text{その学期に評価を受けた科目の単位数の合計}}$
通算G P A	$\frac{((\text{各学期に評価を受けた科目で得たG P}) \times (\text{その科目の単位数の合計})\text{の総和})}{(\text{各学期に評価を受けた科目の単位数の合計})\text{の総和}}$

客観的な指標の
算出方法の公表方法

本学ホームページにて公表

【URL】 https://www.chitose.ac.jp/info/info_index/311

※「学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること」にて公表

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本学は卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）を下記のとおり定め、本学ホームページにて公表している。また、卒業認定については本学学則及び公立千歳科学技術大学履修規程により規定されており、4年以上在学し、共通教育科目 59 単位以上（必修・選択含む）、専門教育科目 63 単位以上（必修・選択含む）、共通教育科目と専門教育科目を合わせて 125 単位以上を修得し、教授会の審議を経て学長が卒業を認定することとしている。

【公立千歳科学技術大学 ディプロマ・ポリシー】

公立千歳科学技術大学は、理工学分野をはじめとする幅広い教育と研究を通して、高い知性とすぐれた人格を有する人材の育成を理念に掲げています。

その実現に向けて、理工学の基礎的な知識・技術を養うと同時に、問題解決に取り組む主体性やチームで物事を進める協働性といった人間力を高めることで、生涯にわたって学び続ける力を身につけ、社会で活躍できる人材の育成を目標としています。

理工学部では、変化の激しい時代においても、各技術分野で活躍するための基礎となる「数学」「科学」「情報」「語学」等の幅広い基礎的学力を修得させた上で、各学科の特色を活かした様々な専門的科目の学びや実験・実習、卒業研究、科目内外でのプロジェクト活動を行うことによって、将来的にどのような業種に進んだ場合においても、柔軟に適応できる能力を身に付けることを目指しています。

このような特徴を有する教育課程において、別に定める所定の単位を取得した上で、下記に定める資質を身につけた者に学士の学位を授与します。

(1)アカデミックリテラシー

統計・解析などの数理的思考ならびに物理・化学・生物・情報に関する基礎的な知識

【理工学に関する基礎知識】と、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの技能による言語活用力および表現力【言語リテラシー】と、計測や電気・電子回路ならびにプログラミングに関する基本的な知識・技能【理工系に必要とされる基盤スキル】を有し、それらを、実験・実習・卒業研究・プロジェクト活動などを通じて活用することができる。

(2)主体性・自律性

主体的に目標を定め、その実現のために自らが立てた規範に従って行動を起こすことができる。

また、その行動に対して社会倫理的に責任を持つことができる。

(3)チームとして活動する力

チームの目標に対して、メンバーとして役割を分担し、他者との対話を通じて協働することができる。

さらに、目標の達成に向けて、責任感を持って粘り強く自らの役割を果たすことができる。

(4)メディアリテラシーを駆使して課題を発見する力

アカデミックリテラシーによる知識・技能を活用して、専門領域での課題発見を見据え、文献調査やインターネットを活用して【ライブラリーワーク】、授業で得られた知

識と他者へのヒアリング【フィールドワーク】や実験【ラボラトリーワーク】等で得られたデータを整理・統合し、自ら課題を発見できる。

(5) 専門的知識・技術を活用する力

(1)～(4)までのポリシーに基づく能力養成を通じて、下記に示す各学科の人材育成目標に呼応した課題解決に取り組むことができる。

【応用化学生物学科】

材料・生物関連技術を基本とした幅広い産業分野で活躍できる人材への成長を見据え、「物質科学」「生物工学」の基礎となる化学、生物学、材料科学を含む融合的な理工学の知識および実験技術を活かし、実際に課題を発見し、解決に対する合理的なアプローチを考案することができる。

課題の解決に向けた取り組みを継続する過程で主体的・自律的に行動し、チームで活動することができる。

【電子光工学科】

産業を支えるエレクトロニクスを基盤とした幅広い技術分野で活躍できる技術者への成長を見据え、光科学の基礎から電気電子や情報通信分野にわたる融合的な理工学の知識および技術を修得し、それらを実際の課題発見や解決に向けた取り組みの中で活用することができる。

また、この取り組みに際して、自ら主体的・自律的に行動し、チームで活動することができる。

【情報システム工学科】

社会の基盤となる情報・サービス分野で活躍できる IT 技術者への成長を見据え、「情報通信」「情報処理」「情報活用」の各知識をプロジェクト活動で活用することができる。

また卒業研究を含む多様なプロジェクト活動の中で主体的・自律的に行動し、チームで活動することにより、実際に課題を発見しその解決に取り組むことができる。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

本学ホームページにて公表

URL:<https://www.chitose.ac.jp/course/diplomapolicy>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	公立千歳科学技術大学
設置者名	公立大学法人公立千歳科学技術大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.chitose.ac.jp/info/info_corporative
収支計算書又は損益計算書	https://www.chitose.ac.jp/info/info_corporative
財産目録	—
事業報告書	https://www.chitose.ac.jp/info/info_corporative
監事による監査報告(書)	https://www.chitose.ac.jp/info/info_corporative

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称: 公立大学法人公立千歳科学技術大学中期計画 対象年度: 2025年度~2030年度)	
公表方法: 本学ホームページにて公表 https://www.chitose.ac.jp/info/info_corporative ※中期計画にて公表	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 本学ホームページにて公表 https://www.chitose.ac.jp/info/info_index/info_evaluation ※点検評価ポートフォリオ(2023年5月)にて公表
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 本学ホームページにて公表 https://www.chitose.ac.jp/info/info_index/info_evaluation ※2023年度実施 大学機関別認証評価 評価報告書にて公表
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 理工学部
教育研究上の目的（公表方法： 本学ホームページにて公表 ） URL: https://www.chitose.ac.jp/info/info_index/311 ※「大学の教育研究上の目的及び第 165 条の 2 第 1 項の規定により定める方針に関すること」にて公表
（概要） 本学は、教育研究上の目的を学則に定め、学則をホームページにて公表している。 学部・学科の教育研究上の目的は下記のとおり。 ①理工学部の教育研究上の目的（学則第 5 条第 1 項） 理工学部は、理学と工学を融合したカリキュラムを基本に、科学技術に関する基礎から応用までを身につけ、さらに人間や環境への視点を有する幅広い職業人を育成する。 ②理工学部応用化学生物学科（学則第 3 9 条第 2 項） 応用化学生物学科は、応用化学分野と生物・医療工学分野の教育と研究により、理学的アプローチと工学的思考法を身につけ、かつ、材料・医療応用をはじめ幅広い関連産業に展開可能な知識を有する職業人を育成する。 ③理工学部電子光工学科（学則第 3 9 条第 3 項） 電子光工学科は、光テクノロジーを軸とした電気電子工学と通信・ロボット工学を融合した教育と研究により、21 世紀の「ものづくり」、「システムづくり」を支える幅広い知識と応用力を備えた職業人を育成する。 ④情報システム工学科（学則第 3 9 条第 4 項） 情報システム工学科は、情報処理、情報通信、情報活用に関わる専門知識を学び、情報あふれる今後の社会において解決すべき課題に主体的に挑む見識と実行力を持ち、幅広い分野で活躍できる職業人を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページにて公表） URL: https://www.chitose.ac.jp/course/diplomapolicy
（概要） 本学は、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、ホームページにて公表している。 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）は下記のとおり。 【公立千歳科学技術大学 ディプロマ・ポリシー】 公立千歳科学技術大学は、理工学分野をはじめとする幅広い教育と研究を通して、高い知性とすぐれた人格を有する人材の育成を理念に掲げています。 その実現に向けて、理工学の基礎的な知識・技術を養うと同時に、問題解決に取り組む主体性やチームで物事を進める協働性といった人間力を高めることで、生涯にわたって学び続ける力を身につけ、社会で活躍できる人材の育成を目標としています。 理工学部では、変化の激しい時代においても、各技術分野で活躍するための基礎とな

る「数学」「科学」「情報」「語学」等の幅広い基礎的学力を修得させた上で、各学科の特色を活かした様々な専門的科目の学びや実験・実習、卒業研究、科目内外でのプロジェクト活動を行うことによって、将来的にどのような業種に進んだ場合においても、柔軟に適応できる能力を身に付けることを目指しています。

このような特徴を有する教育課程において、別に定める所定の単位を取得した上で、下記に定める資質を身につけた者に学士の学位を授与します。

(1) アカデミックリテラシー

統計・解析などの数理的思考ならびに物理・化学・生物・情報に関する基礎的な知識【理工学に関する基礎知識】と、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの技能による言語活用力および表現力【言語リテラシー】と、計測や電気・電子回路ならびにプログラミングに関する基本的な知識・技能【理工系に必要とされる基盤スキル】を有し、それらを、実験・実習・卒業研究・プロジェクト活動などを通じて活用することができる。

(2) 主体性・自律性

主体的に目標を定め、その実現のために自らが立てた規範に従って行動を起こすことができる。

また、その行動に対して社会倫理的に責任を持つことができる。

(3) チームとして活動する力

チームの目標に対して、メンバーとして役割を分担し、他者との対話を通じて協働することができる。

さらに、目標の達成に向けて、責任感を持って粘り強く自らの役割を果たすことができる。

(4) メディアリテラシーを駆使して課題を発見する力

アカデミックリテラシーによる知識・技能を活用して、専門領域での課題発見を見据え、文献調査やインターネットを活用して【ライブラリーワーク】、授業で得られた知識と他者へのヒアリング【フィールドワーク】や実験【ラボラトリーワーク】等で得られたデータを整理・統合し、自ら課題を発見できる。

(5) 専門的知識・技術を活用する力

(1)～(4)までのポリシーに基づく能力養成を通じて、下記に示す各学科の人材育成目標に呼応した課題解決に取り組むことができる。

【応用化学生物学科】

材料・生物関連技術を基本とした幅広い産業分野で活躍できる人材への成長を見据え、「物質科学」「生物工学」の基礎となる化学、生物学、材料科学を含む融合的な理工学の知識および実験技術を活かし、実際に課題を発見し、解決に対する合理的なアプローチを考案することができる。

課題の解決に向けた取り組みを継続する過程で主体的・自律的に行動し、チームで活動することができる。

【電子光工学科】

産業を支えるエレクトロニクスを基盤とした幅広い技術分野で活躍できる技術者への成長を見据え、光科学の基礎から電気電子や情報通信分野にわたる融合的な理工学の知識および技術を修得し、それらを実際の課題発見や解決に向けた取り組みの中で活用することができる。

また、この取り組みに際して、自ら主体的・自律的に行動し、チームで活動することができる。

【情報システム工学科】

社会の基盤となる情報・サービス分野で活躍できる IT 技術者への成長を見据え、「情報通信」「情報処理」「情報活用」の各知識をプロジェクト活動で活用することができる。

また卒業研究を含む多様なプロジェクト活動の中で主体的・自律的に行動し、チームで活動することにより、実際に課題を発見しその解決に取り組むことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにて公表）

URL:<https://www.chitose.ac.jp/course/curriculumpolicy>

（概要）

本学は、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）を定め、ホームページにて公表している。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）は下記のとおり。

【公立千歳科学技術大学 理工学部 カリキュラムポリシー】

1 教育内容

公立千歳科学技術大学では、入学時の選抜を学部一括で行い、1年次では理工学に共通な基礎となる学科共通科目を配置しています。

学科への移行は2年次に行い、2年次以降に専門教育科目を配置しています。各学科とも、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、学科共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、実験・実習を適切に組み合わせた教育を行います。

専門教育科目では、各学科とも履修プランを設定し、一つの分野を重点的に、またはいくつかの分野を融合的に履修可能にします。

カリキュラムの体系を示すためにカリキュラムマップを作成し、わかりやすく明示します。

4年間の総括的な学修は「卒業研究」によって行い、ディプロマ・ポリシーに沿った社会に求められる素養を身につけさせます。

(1) アカデミックリテラシー

【理工系に関する基礎知識】

学科共通科目では、理工学を学ぶ上で必要な基礎知識として数学・物理・化学・生物・情報の各科目、科学のおよび工学的考え方を身に付けるための科目、専門教育に結びつく科目を配置し、知識の理解を図ります。

また、専門教育科目として、各分野の知識を理解した上で活用する講義・実験実習科目を配置します。

【言語リテラシー】

自然科学・人文科学・社会科学の全領域で、レポートやプレゼンテーション課題を通じて、自らの学びの成果を他者に適切に伝える表現力の養成を図ります。

学科共通科目や英語を中心とした語学教育、さらに学科共通科目・専門教育科目においても、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの技能による言語活用力および表現力の養成を図ります。英語については、選択科目を2学年から4学年にわたって配置し、より進んだ語学力を養います。

【理工系に必要とされる基盤スキル】

幅広い理工系技術領域で活躍できる技術者の基盤スキルとして、基本的な計測や電気・電子回路およびプログラミングに関する実験・実習をすべての学科で必修科目として実施します。

(2) 主体性・自律性

自然科学・人文科学・社会科学の全領域で、主体性・自律性を持って学ぶ姿勢を求める授業形態をとります。

知識定着型の授業では、反転学修を積極的に取り入れ、学生の主体性を促します。

実験・実習科目や知識活用型の講義では、社会で求められる力や自らの専門領域の高度なスキル向上を意識した個別の課題解決型学修を通じて、自律的な学修者への成長を促します。

キャリア教育では、社会で求められる力および本学卒業生の就業状況を具体的に理解させながら、卒業後を意識した、目標設定、振り返り学修を通じて、自らのキャリアプランニングを行えるようにします。

(3) チームとして活動する力

学科共通科目、キャリア科目、各学科の実験・実習やプロジェクト系科目等様々な科目で、協働的な活動を取り入れます。

授業中にチーム課題（目標）を設定し、学生がメンバーとの間で役割を分担して、各自が責任を持って自らの課題に取り組み、問題の解決を図ります。

(4) メディアリテラシーを駆使した課題発見力

学科専門科目を中心にメディアリテラシーを駆使した課題発見力の養成を図ります。各科目で教授する知識を学生自らが構造化しながら、課題を発見できるようにします。このため、講義系科目で学ぶ専門知識に対して、文献やインターネットを活用して情報を収集し【ライブラリーワーク】、さらに実験やフィールドワーク等を通じてデータと照らし合わせながら【フィールドワーク】【ラボラトリーワーク】、整理・統合（知識の構造化）できる、問題解決型授業を配置します。

これにより、学生自らが志向する専門的な学びの中での課題を発見できるように導きます。

(5) 専門的知識・技術を活用する力

卒業研究を通じて、課題解決力を養います。

メディアリテラシーを駆使した課題発見力を養成する専門科目での学生の課題発見の経験を基盤として、研究室担当教員の指導の下、専門知識領域における課題の設定を図り、その課題をそれまでに培った知識・技能を駆使して解決に取り組むことで、理工系の幅広い分野で技術の活用を図れると同時に各自の専門性を発揮して社会で活躍できる人材の育成（理工系的全人格教育の集大成）を図ります。

なお、学科毎の専門領域に向けたアプローチは下記の通りとします。

<応用化学生物学科>

2年次以降の学科専門教育科目では、材料・生物関連技術を基本とした幅広い産業分野で活躍できる人材を育成することを目指しています。

そのため、化学に軸足を置く「物質科学分野」から、生物に軸足を置く「生物工学分野」に至る幅広い領域の知識を講義形式の科目で学び、それを実験・実習科目で活用します。

それらを通じた知識・技術を活用する力の向上を専門教育の柱とし、主たる化学・生物・物理系の実験に加えて、理工系に必要とされる基盤スキルにも柔軟に対応できる

ように、各科目を配置しています。

4年次においては、卒業研究を通じて、上記に記載したカリキュラムで獲得した知識および実験技術を活かし、実際に課題を発見し、解決に向けて合理的なアプローチを考案できる能力を身に付けさせます。

また、課題解決に向けての取り組みを継続する過程で、主体性・自律性やチームとして活動する力を育みます。

応用化学生物学科では、中学校教諭一種免許状<理科>、高等学校教諭一種免許状<理科>の取得が可能な科目を1年次から体系的・系統的に配置しています。

<電子光工学科>

2年次以降の学科専門教育科目では、エレクトロニクスを基盤とした幅広い技術分野で活躍できる人材を育成することを目指しています。

そのため、電気・電子回路や光科学技術を学ぶ「オプトエレクトロニクス分野」、センシングやロボティクスを学ぶ「信号処理・計測制御分野」、通信システムやその幅広い応用を学ぶ「情報通信分野」の各知識を講義形式の科目で学び、それを実験・実習科目で活用します。実験・実習科目を通じた知識・技術を活用する力の向上を専門教育の柱とし、さらにコンピュータ関連の実習科目も配置します。

4年次においては、卒業研究を通じて、上記に記載したカリキュラムで獲得した知識および実験技術を活かし、実際に課題を発見し、その解決に向けて合理的なアプローチを考案できる能力を身に付けさせます。

また、課題の解決に向けての取り組みを継続する過程で、主体性・自律性やチームとして活動する力を育みます。

電子光工学科では、中学校教諭一種免許状<数学>、高等学校教諭一種免許状<数学・情報>の取得が可能な科目を1年次から体系的・系統的に配置します。

<情報システム工学科>

2年次以降の学科専門教育科目では、情報技術系で活躍できる人材を育成することを目指しています。

ハードウェア関連の知識を修得した上でネットワーク技術などの情報通信を学ぶ「情報通信応用分野」、先導的なソフトウェア技術（人工知能やIoT）を活用したシステムの提案・開発・構築を学ぶ「ICTソリューション分野」、統計的手法に基づいて情報を活用する「サービス科学・工学分野」の各知識を講義形式の科目で学びつつ、専門教育の柱であるプロジェクト型科目において知識を活用し、チームとして活動しながら問題解決力を育みます。

さらに、日本語での文章作成能力、発表能力などの言語リテラシーも養います。

4年次においては、卒業研究を通じて、上記に記載したカリキュラムで獲得した知識および実験技術を活かし、主体的に課題を発見し、解決に向けて合理的なアプローチを考案できる能力を身に付けます。

情報分野の専門性を持ち、ICT活用能力を兼ね備えた教員の育成のため、中学校教諭一種免許状<数学>、高等学校教諭一種免許状<数学・情報>の取得に必要な科目を1年次から体系的・系統的に配置します。

2 教育方法（以降は3学科共通）

主体性・自律性、チームとして活動する力を高めるために、アクティブラーニングを積極的に取り入れた教育方法を学科共通科目・専門教育科目で実施します。

また、講義科目でも各科目の中で積極的にチーム活動を行う学修を図り、学生一人一人が「聞く」「話す」「読む」「書く」に加えて「発表する」を行える授業方法を実践します。

ICT 活用教育環境として、学科共通科目を中心に、学内で整備した e ラーニング教材を反復的なテスト形式や知識習得に活用し、授業外学修においても積極的に利用させます。

授業の活動成果をカリキュラムマップに沿って学生に個人カルテシステムに蓄積させ、キャリア科目やアドバイザー面談を通じて、科目を横断した様々な学修成果を到達レベルの軸に沿って振り返らせ、自己成長を促します。

3 教育評価

学科共通科目および専門教育科目のすべての科目について、成績評価基準をシラバスに明記しており、成績評価は厳正に行います。

また、各授業のシラバスには、ディプロマ・ポリシーに沿った到達目標や獲得できる能力を明記し、教員・学生双方で共有します。さらに各授業評価アンケートを通じて学生の主体性・自律性を振り返らせると同時に、教員も次年度以降の授業内容・方法の改善を図れるようにします。

4 年間の総括的な学修は、研究室での卒業研究活動の中で行い、学科教員によってディプロマ・ポリシーに沿って、総括的評価を行います。

卒業研究に関わる研究室での活動を通じて、研究テーマに対する理解力、到達度などの内容に対する評価のみならず、

- ①主体性・自律性
- ②チームとして活動する力
- ③課題発見力
- ④専門的知識・技術を活用する力

など、ディプロマ・ポリシーに沿った社会に求められる素養を評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにて公表）

<https://www.chitose.ac.jp/juken/exam/admission>

（概要）

本学は、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）を定め、ホームページにて公表している。

入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）は下記のとおり。

公立千歳科学技術大学は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）を定め、それに従った「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に基づいた教育を行います。そのため、以下のように定めた入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に基づき入学者を選抜します。

【公立千歳科学技術大学 アドミッション・ポリシー】

1 大学の理念

(1) 公立千歳科学技術大学は、理工学分野をはじめとする幅広い教育と研究を通して、高い知性とすぐれた人格を有する世に有為なる人材を育成するとともに、学術・産業の振興

に貢献します

(2) 公立千歳科学技術大学は、知の拠点として大学が有する人材と知恵を社会に提供し、地域との共生を通して社会とともに発展する大学を目指します

2 入学者に求める学生像

公立千歳科学技術大学は、大学の理念に掲げる能力を兼ね備え、「社会で活躍できる人材」となる可能性を持った人を受け入れます。入学者に求める学生像は次のとおりです。

(1) 自然現象や科学技術およびこれらの活用に興味関心のある人、理工学の基礎知識から応用分野にいたるまでの総合的な知識や技術を生かして社会の発展に貢献したい人、人間と環境が調和した安全で安心な未来づくりに挑戦したい人

(2) 好奇心・想像力・柔軟性を持って探求できる人、教えられるのではなく主体的に目標を立てて学ぶことにより問題発見を目指す意欲のある人、自分の目標を設定し、それを達成するために自分自身を磨き、常に努力できる向上心を持った人、将来社会において、他者との対話を通じ協働し、知識を活用し様々な課題を発見・解決できる技術者を目指す人

3 入学者に求める能力

理工学部では「ディプロマ・ポリシー」に対応する「カリキュラム・ポリシー」に基づく教育を受けようとする人に対して、次のような「学力の3要素」を求めています。

(1) 「知識・技能」

初年次に数学・物理・化学・生物・情報に関する【理工学に関する基礎知識】を学び、専門的な学修に結び付けます。このため、高等学校等においては次の教科、科目について、日々の学びを通じて基礎的な知識、能力を身につけておくことを望みます。

- ・数学：数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B、数学C
- ・理科：物理基礎、物理、化学基礎、化学、生物基礎、生物
- ・情報：情報Ⅰ

なお、高等学校等の教育課程によっては、これらの科目をすべて履修できない場合があります。このような場合は、数学、理科および情報に高い関心を持っていると同時に、履修していない科目について、入学前に本学のeラーニングシステムを活用した自学自習などにより、身につける意欲を持っていることを望みます。

(2) 「思考力・判断力・表現力」

入学後には専門教育を通じて、課題発見力、課題解決力を養成します。このため、高等学校等での学習においては、単に公式を基に答えを導くだけでなく、問いの背景にある関連する事柄やしくみを理解し、論理的な思考によって答えを導く力を身につけるよう努力を続けることを望みます。何事にも目標を設定し、積極的に他者と関わり、文献やインターネット等から得た情報を活用（メディアリテラシー）するなどして、目標を達成しようと努力を続けることを望みます。

また、表現力を身につけるため、「聞く」「話す」「読む」「書く」といった【言語リテラシー】の養成を図ります。このため、理数系の教科だけでなく、英語や国語といった教科についても、高等学校等での日々の学びを通じて、基礎的な知識、能力を身につけておくことを望みます。

(3) 「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」

目標とする「社会で活躍できる人材の養成」には、問題解決に取り組む主体性やチームで物事を進める協働性といった能力を高めることが必要となります。これらの能力を養成するため、実験・実習科目だけでなく、講義系科目においても学生自らが主体的に参加できるような教育を行います。また、「チームとして活動する力」を高めるため、プロジェクト活動において他者と協働して課題発見、課題解決力の養成を行います。こうした本学の教育の方針をよく理解し、積極的にこれらの能力を身につける意欲を持った人を求めています。高等学校等においては、学級での生活や課外活動等を通じて、同級生はもとより、

違う学年の人、多くの先生などと積極的に関わり、コミュニケーション能力を養っておくことを望みます。

4 入学者選抜の基本方針

理工学部では上記「入学者に求める能力」を確かめることを目的に、また、多様な能力や目的を持った人に対応するため、以下の入学試験制度を設け、評価、選抜します。

【一般選抜（前期日程・公立大学中期日程）】

前期日程、公立大学中期日程ともに大学入学共通テストを課します。このことによって、理工学を学ぶうえで必要となる基礎的な知識、技能を評価します。また個別学力検査は、前期日程では「数学」および「理科」（「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」、「生物基礎・生物」から1科目選択）の試験、公立大学中期日程は「数学」の試験を課します。

「入学者に求める能力（学力の3要素）」については、特に「知識・技能」および「思考力・判断力・表現力」を評価します。調査書については、出願資格の確認ならびに入学後の修学支援等の参考資料として活用します。

【総合型選抜】

本学が指定した課題への取組状況および結果を重視します。課題は、出願時に志願理由書ならびに小論文を提出してもらい、その後にeラーニングによる学習を課し、定められた期間内に、必要な自学自習を行うことで、物事に主体的・計画的に取り組む態度を評価します。スクーリングでは、基礎学力検査や与えられたテーマに基づき、グループワークおよびプレゼンテーションを実施し、理工学を学ぶうえで必要な資質、適性を評価します。

「入学者に求める能力（学力の3要素）」については、特に「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を重視し、その結果および面接試験を通じて調査書の内容を含めて総合的に評価します。

【学校推薦型選抜 学校推薦型A（千歳地区）・学校推薦型B（全国）】

高等学校、中等教育学校、高等専門学校の校長が推薦する者を対象に、理工学を学ぶうえで必要な知識、技能、興味、関心を有しているか、加えて自発的に向上心を持って取り組む姿勢などを、高等学校等での総合的な学力評価、特別活動、部活動等の諸活動の状況、特技や資格をもとに、面接試験および基礎学力検査・小論文ならびに志望理由書・学校長推薦書・調査書を通じて総合的に評価します。「入学者に求める能力（学力の3要素）」については、3つとも評価します。

また、学校推薦型A（千歳地区）については、入学後に本学が立地する北海道千歳地区をその対象として、講義やプロジェクト学習を通じて学ぶこととなりますが、その中で、現代の地域の問題や課題を掘り起こして検討を加え、新たな仕組みやサービスを提案できる人材の育成を目標としています。この方針に共感し、活動等を通じて地域の特性を理解したうえで、課題認識を持ち、地域の人々と協力しその解決に向かっていける能力等を特に重視し評価します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：本学ホームページにて公表

https://www.chitose.ac.jp/info/info_index/311

※教育研究上の基本組織に関することにて公表

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	2人	－					2人
理工学部	－	30人	17人	3人	3人	0人	53人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
人		38人					38人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： 本学ホームページにて公表 https://www.chitose.ac.jp/course/teacher					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>本学におけるFD活動は、公立千歳科学技術大学FD委員会要綱の規定に基づき、FD委員会が教員の資質向上や授業改善に係る施策を検討・実施している。</p> <p>教員の資質向上及び授業改善に係る主な取組は次のとおり。</p> <p>①教員相互による授業公開（年2回）</p> <p>②授業評価アンケートの実施（春学期・秋学期の年2回）</p>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
理工学部	240人	244人	101.7%	960人	1,049人	109.3%	若干名	2人
合計	240人	244人	101.7%	960人	1,049人	109.3%	若干名	2人
(備考)								

b. 卒業生数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
理工学部	246人 (100%)	51人 (20.7%)	183人 (74.4%)	12人 (4.9%)
合計	246人 (100%)	51人 (20.7%)	183人 (74.4%)	12人 (4.9%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) (主な進学先) 公立千歳科学技術大学大学院、北海道大学大学院、東京科学大学大学院、大阪公立大学大学院 (主な就職先) ADEKA、KDDI、NTTドコモ、Rapidus、SBテクノロジー、アルファシステムズ、インターネットイニシアティブ、国土交通省、札幌市役所、ソフトバンク、トヨタ自動車北海道、ニトリ、ホクレン農業協同組合連合会、北海道庁、ミネベアミツミ、王子ホールディングス、航空自衛隊、三菱電機、東芝デジタルソリューションズ、日本システム技術、日立製作所、富士ソフト、北海道文化放送、矢崎総業				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
理工学部	271人 (100%)	222人 (82%)	31人 (11%)	18人 (7%)	人 (%)
合計	271人 (100%)	222人 (82%)	31人 (11%)	18人 (7%)	人 (%)
(備考) 留年は、休学による留年が多く、休学の主な理由は、修学意欲の低下、病気療養、進路検討となっている。また、中途退学者のうち、1~2年生の低学年次が半数以上であり、退学の主な理由は、進路変更(就職・他教育機関)および、修学意欲の低下となっている。					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>シラバスは、全学的に統一した様式にて各授業科目担当教員が作成している。</p> <p>シラバスの記入項目は、①科目名、②配当学年、③必修・選択の区分、④CAP 制対象の有無、⑤授業の種類、⑥単位数、⑦授業回数、⑧授業担当者、⑨単位認定責任者、⑩実務経験の有無、⑪実務経験のある教員名および授業の関連内容、⑫授業科目の概要、⑬授業科目の到達目標、⑭学修成果評価項目および評価方法、⑮授業の展開、⑯授業外学修について、⑰教科書、⑱参考文献、⑲試験等の実施及び成績評価の割合、⑳成績評価の基準、㉑試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項の21項目からなり、その授業科目によって「何ができるようになるか」、「どのように成績評価を行うのか」、「授業外学修をどのように行ったらよいか」等について、明確に示している。</p> <p>シラバスは、2月に各授業科目担当教員が作成し、3月上旬から中旬にかけて確認作業を行った後、3月下旬頃に公表している。公表方法については、在学生は学内のweb履修登録システムからシラバスを確認することができ、また、本学ホームページにもPDF化したシラバスを公開しており学内関係者のみならず、一般にもシラバスを公開している。</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
各授業科目の成績評価及び単位認定については、本学学則及び公立千歳科学技術大学履修規程に規定しており、それらの規程に基づき各授業科目の担当教員が予めシラバスにて示した成績評価の方法・基準（試験実施の有無や試験結果の評価への反映の割合等）により厳格かつ適正に行っている。また、卒業認定は学則及び公立千歳科学技術大学履修規程により規定しており、4年以上在学し、共通教育科目 59 単位以上（必修・選択含む）、専門教育科目 63 単位以上（必修・選択含む）、共通教育科目と専門教育科目を合わせて 125 単位以上を修得し、教授会の審議を経て学長が卒業を認定することとしている。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
理工学部	応用化学生物学科	125 単位	有・無	(標準) 22 単位
	電子光工学科	125 単位	有・無	(標準) 22 単位
	情報システム工学科	125 単位	有・無	(標準) 22 単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：ホームページにて公表 https://www.chitose.ac.jp/info/info_index/info_learning ※「4. 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準（必修・選択・自由科目別の必要単位修得数及び修得可能学位）」にて公表している PDF ファイルのうち学部については「8. GPAの活用」にて公表		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：ホームページにて公表 公表している主な内容は次のとおり ・教育職員免許状取得状況（教員採用の状況含む） https://www.chitose.ac.jp/info/info_index/aboutteacher		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：本学ホームページにて公表 https://www.chitose.ac.jp/info/facilities
--

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
理工学部	応用化学生物学科	535,800 円	市内者	0 円	
	電子光工学科		141,000 円		
	情報システム工学科		市外者 282,000 円		

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 本学では、学生への修学支援策として下記の事業を実施している。 ①専任教員及び非常勤講師の全教員によるオフィスアワーの実施 ②クラスアドバイザーによる学修・生活に関するアドバイスの実施 ③成績不良者に対する学修指導 ④保護者向けポータルサイトによる父母との修学情報の共有（家庭と連携した修学指導） ⑤ティーチングアシスタント（ステューデントアシスタント含む）による授業支援 ⑥メディア・コンサルタントによる ICT 機器の活用支援 ⑦eラーニングによる修学支援
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 本学では、学生への進路選択・就職支援策として下記の事業を実施している。 ①1・2年生の共通教育科目に「キャリア形成 A1・A2・B1・B2（1単位）」を開講 ②3年生の各学科専門教育科目として「インターンシップ（1単位）」を開講 ③3年生を対象とした就職活動に係る「キャリア形成プログラム」の実施 ④キャリアアドバイザー及びキャリア支援課職員による個別相談の実施 ※キャリアアドバイザーはキャリアコンサルタント（国家資格）の有資格者 ⑤企業の人事担当者による学内業界研究セミナーの実施 ⑥社会で活躍している卒業生を迎えてOB OG対話を実施
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 本学では、学生の心身の健康等に係る支援策として下記の事業を実施している。 ①学生相談室によるメンタル及び健康相談の実施 ※相談員は、医師、臨床心理士、公認心理士等の有資格者 ②看護師・保健師の資格を持つ専任職員を保健室に配置 ③全学生に対する健康診断の実施 ④障害学生支援委員会による要支援者への対応方法の検討及び実施

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：年報をホームページで、紀要を機関リポジトリで公開している 年報 URL： https://www.chitose.ac.jp/info/info_index/info_report/894 紀要 URL： https://opac.mc.chitose.ac.jp/opac/opac_search/ 備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F101210100134
学校名 (〇〇大学 等)	公立千歳科学技術大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	公立大学法人公立千歳科学技術大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等 (内数) ※家計急変による者を除く。		135人 () 人	131人 () 人	142人 () 人
内 訳	第Ⅰ区分	78人	81人	
	(うち多子世帯)	() 人	() 人	
	第Ⅱ区分	30人	30人	
	(うち多子世帯)	() 人	() 人	
	第Ⅲ区分	-	-	
	(うち多子世帯)	() 人	() 人	
	第Ⅳ区分 (理工農)	人	人	
	第Ⅳ区分 (多子世帯)	-	-	
区分外 (多子世帯)		人		
家計急変による 支援対象者 (年間)				0人
合計 (年間)				142人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が廃止の基準に該当)	-	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意 欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	-	人	人
計	-	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2 年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	-	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が警告の基準に該当)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	14人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	14人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。